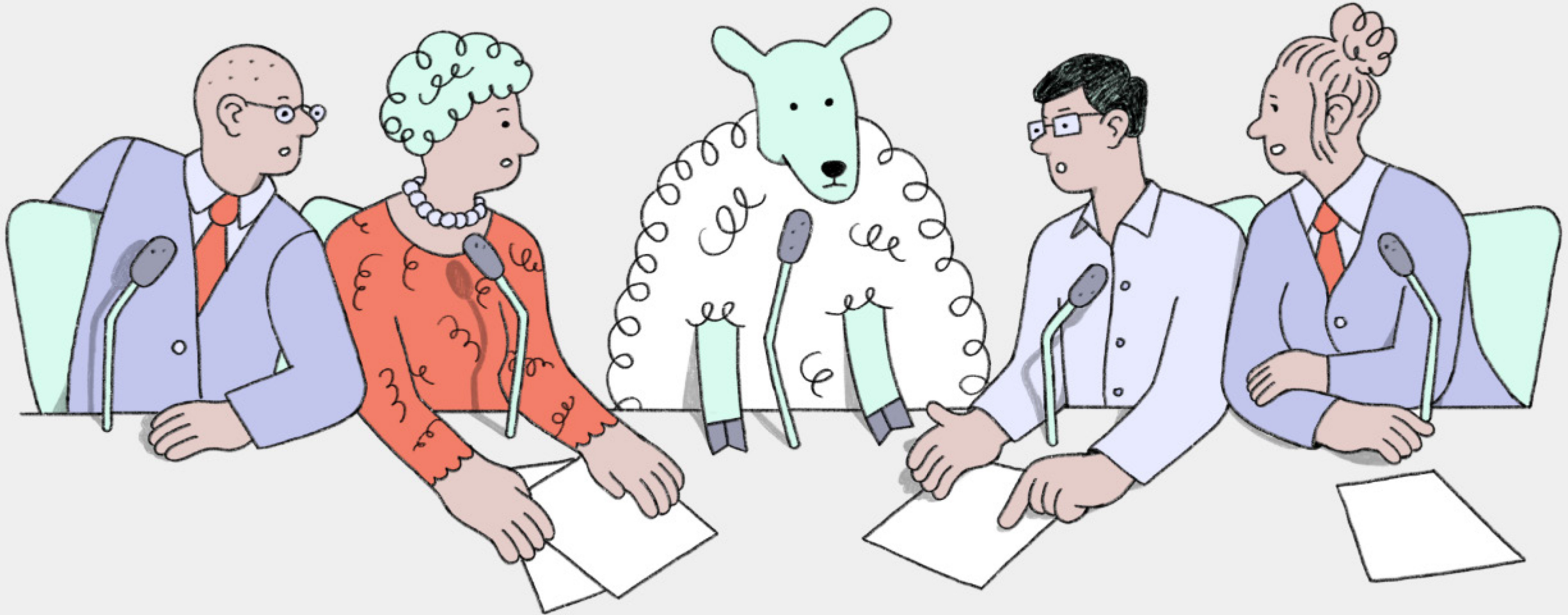


# オランダにおける持続可能な食糧生産： 市民、消費者、そして動物福祉の特別事例



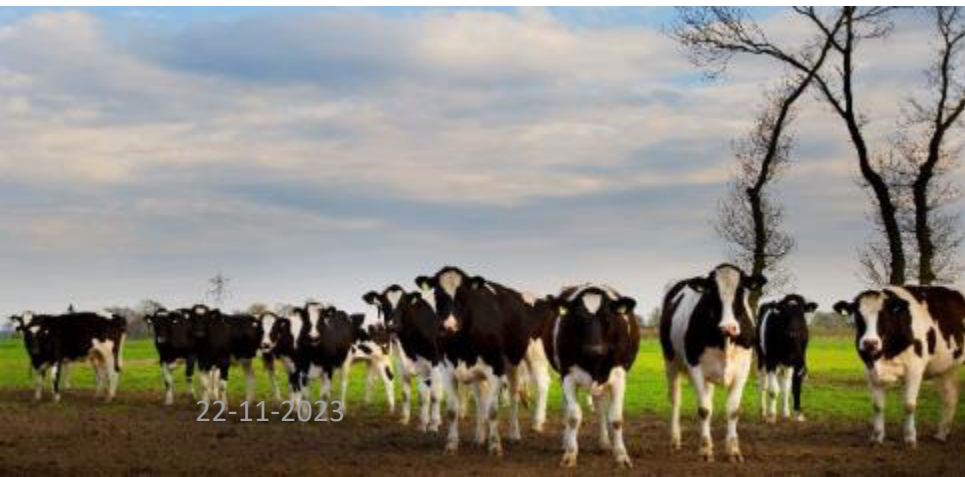
Frederik Vossenaar オランダ農業・自然・食品品質省 特使

22-11-2023

Netherlands - Japan seminar Sustainable Food Production

## オランダにおける持続可能な食糧生産（1）

- 都市に住む人々と農場のつながりが徐々になくなってきている
- 都市と農場は比較的近くに位置している—保養地、景観
- 動物の感染症の発生は、健康な動物の殺処分や公衆衛生へ影響を引き起こす（口蹄疫（FMD）、アフリカ豚熱（ASF）、牛海綿状脳症（BSE）、AI、Q熱）
- 環境への影響を軽減するための断片的な政策やプログラム（大半は畜産関係）に対する不安の増大



22-11-2023

## オランダにおける持続可能な食糧生産（2）

オランダ農業大臣による「ビジョン・ペーパー」（2018年）では、食糧生産と自然の共存を強調

- 廃棄物削減 – 作物残渣、食品廃棄物、肥料：全てを再利用
- 排出量を最低限に（温室効果ガス、アンモニア、窒素）
- 病気の予防、抗生物質を従来以上に削減
- 動物の生きる権利を守った上で飼育すべきであり、動物が不自由なく生きる環境を提供する必要がある



## オランダにおける持続可能な食品生産（3）

実施に必要な具体的な政策について、連立政党間で白熱した議論が交わされており、実施が遅れている。

生物の多様性、自然、公衆衛生を維持するための国際合意のもと、裁判所が執行する法的義務が議論をさらに激しいものになっている。



22-11-2023

# オランダでは、動物福祉は長い歴史を持つテーマ



国会では「動物のための党」が、2006年以来強い影響力を持っている。  
通常、動物福祉に関連する問題が国会で過半数を占めており  
業界は「生産のための民間ライセンス」を必要としている。



22-11-2023

Netherlands - Japan seminar Sustainable Food Production

手ごろな価格での食糧安全保障が従来からの観点であり、動物福祉は「持続可能性」の主流として定義されていませんでした。

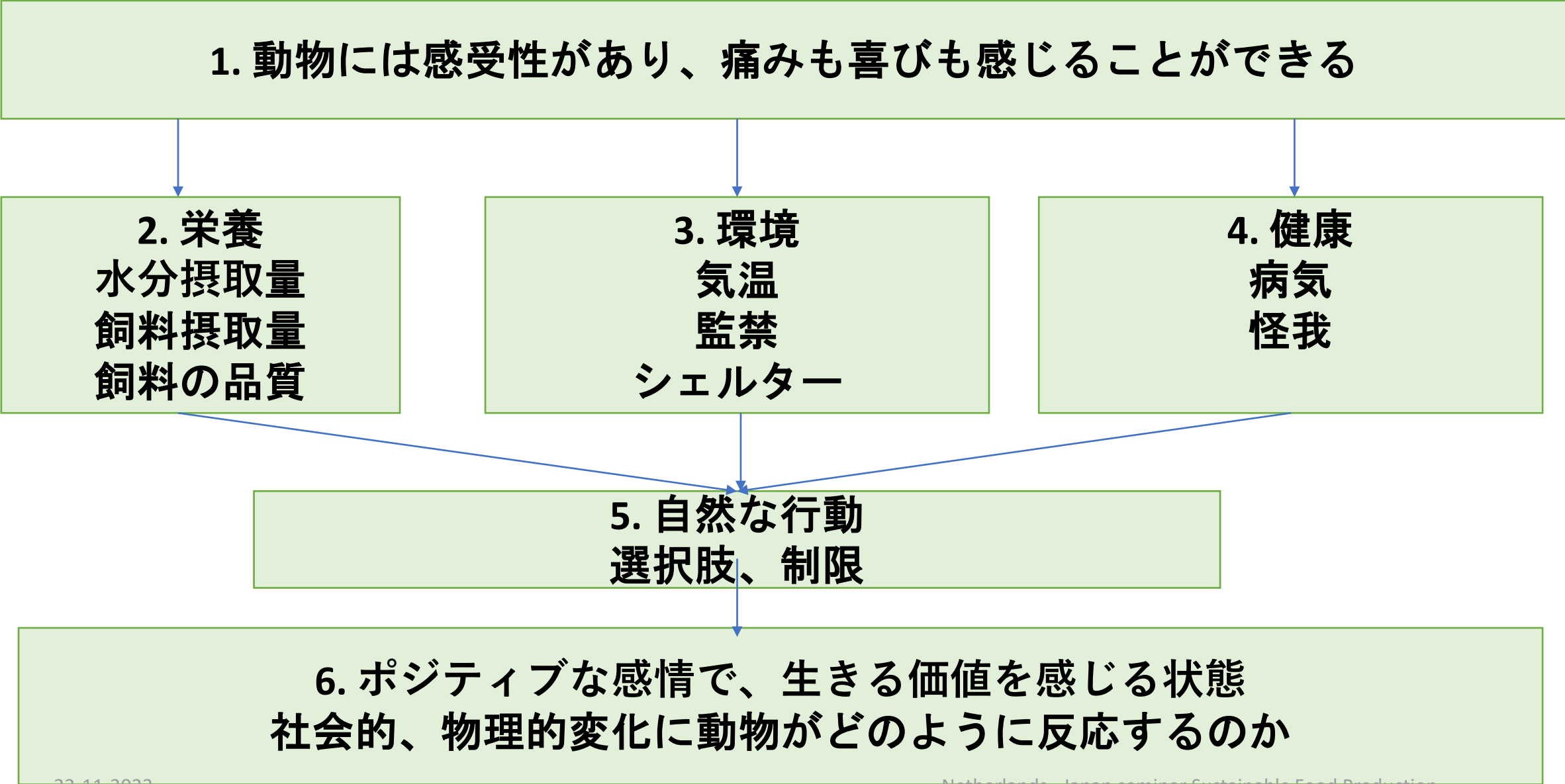
動物福祉についての関心はEU加盟国ごとに見解が異なるため、さらに議論が分かれています。EUは2009年に、「動物には感受性がある」という結論を出しました。2020年の「農場から食卓へ」という戦略では、規制は最新の科学的証拠に沿ったものでなくてはならず、さらに高度なレベルの動物福祉を確保する必要があると述べています。

現在、以下の「5つの自由」の原則に基づいています：

- 飢えや渇きからの自由
- 不快からの自由
- 痛み、外傷、病気からの自由

オランダでの議論：ポジティブな福祉のあり方はどうなのか？

# 動物飼育システムの6原則







- 持続可能な畜産に関する最終的な規制はありませんが、畜産農家は社会や政府で交わされている議論を非常に強く認識しています。
- ほとんどの農家が、排出量の低減や、飼料の地産、動物福祉の向上など、農場の持続可能性を向上に努めています。
- 投資からメリットを得るためには、マーケティングスキームが必要です。

CO2ニュートラルな卵を生産する「キップスター社」のコンセプトは、すでに米国で採用されています。「自然と調和」の精神に基づいたイノベーションはこれからも続きます。



- 政府が長期目標を設定する必要があるものの、目標達成の方法は畜産業界に任せる
- 消費者は食品に対し、より多くの対価を支払う準備をすべき
- 農業従事者と市民は、お互いにつながる方法を模索すべき



22-11-2023

Netherlands - Japan seminar Sustainable Food Production

# ありがとうございました！

**Frederik Vossenaar**

オランダ農業・自然・食品品質省 特使

[f.l.m.vossenaar@minlnv.nl](mailto:f.l.m.vossenaar@minlnv.nl)

+31652775943

